

【目次】

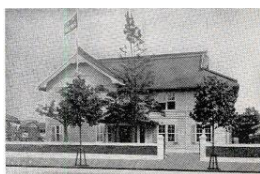
1. 総同盟が惟一館を買収し、日本労働会館を設立してから90年、1930年8月6日！
2. 鈴木文治が内外社会問題調査所を設立してから90年、昭和5（1930）年8月！
3. 所蔵写真で見る第二インター議長・ヴァンデルベルト氏の来日、1930年9月23日！
4. J・コンドルゆかりの建物などを紹介した「コンドルマップ」を贈呈します！

1. 総同盟が惟一館を買収し、日本労働会館を設立してから90年、1930年8月6日！

総同盟（友愛会の後身、後の同盟。現在の連合）は90年前の1930（昭和5）年8月6日、東京芝の惟一館（旧ユニテリアン教会。現在の友愛会館）の土地と建物を買収しています。

友愛会誕生の地であるユニテリアン教会・惟一館は、福澤諭吉らが招聘した米国ユニテリアン協会が明治27年に建設。この惟一館で1912（大正元）年8月1日、ユニテリアン教会職員・鈴木文治により友愛会が創立されます。友愛会は大正10年に総同盟へと発展し、戦前期の日本労働運動の本流となりました。惟一館では1898（明治31）年に安部磯雄、村井知至らにより社会主義研究会（後の社会民主党）が結成されており、日本社会主義運動の発祥地とされています。

米国ユニテリアン協会の日本撤退により惟一館は、1924（大正13）年に人手に渡ってしまいます。そこで総同盟は惟一館を買収することとし、1930（昭和5）年8月6日に東京建物株式会社との間で売買契約書を取り交わしました。買収金額は当時のお金で4万円。総同盟は組合員カンパにより3万7358円を集めましたが、約1万円は日本労働会館建設後援会（安部磯雄、賀川豊彦、新渡戸稲造、吉野作造らが組織）からの寄付金でした。



彼らの資金援助もあり、惟一館の土地と建物は総同盟のものとなり、総同盟はその管理のため（財）日本労働会館を翌1931年に設立します。これにより日本の社会主義運動と労働運動の発祥の地である惟一館は、現在も総同盟系労組により友愛会館・三田会館として保持されています。

2. 鈴木文治が内外社会問題調査所を設立してから90年、昭和5（1930）年8月

友愛会創立者・鈴木文治は90年前の1930（昭和5）年、第14回国際労働会議の日本代表として渡欧し、ILOの会期中副議長を務め、8月に帰国しています。

同月、鈴木は内外社会問題調査所（協調会館内）を設立し、『内外社会問題調査資料』（発行編集兼印刷人亀井貫一郎）を刊行します。印刷所は和田操が経営していた和田印刷所。

内外社会問題調査所は「創立趣旨」で、「資本と労働との関係を中心として発生する種々の社会問題を主とし、産業、経済、政治その他の各方面に亘って、世界各国の状況を、最新の材料に基いて調査研究すると共に、その調査資料を普く迅速に同好の氏に頒布することにより、我が国の国際的地位を正確に認識するの一助たらしめたい」と記しています。



また「目的」で、「本所は内外社会問題の調査をなし、次の諸項の如き事業を行う」とし、「1. 内外の社会問題並に社会運動の調査研究、2. 我国の社会問題並に社会運動の海外紹介、3. 内外の政治経済社会其他時事問題の批判紹介、4. 調査資料の発行並にパンフレットの刊行」を挙げています。『内外社会問題調査資料』第1号は1930

(昭和5)年8月に非売品として刊行され、1944(昭和19)年4月の第603号まで刊行されています。この種の出版物が戦時下の1944(昭和19)年まで刊行されていることに驚く。現在、『内外社会問題調査資料』は株式会社から復刻されています(前頁写真)。

3. 所蔵写真でみる第二インター議長・ヴァンデルベルト氏の来日、1930年9月23日!

友愛労働歴史館のある友愛会館の前身は日本労働会館で、さらにその前身は明治27年に建設されたユニテリアン教会・惟一館です。惟一館(日本労働会館)は1945(昭和20)年5月の東京山の手大空襲で焼失し、友愛会以来の労働運動・社会運動に関する資料は全て失われました。



現在、友愛労働歴史館が所蔵する資料は戦後、個人・団体から寄贈されたものが中心です。所蔵写真の中に1930(昭和5)年9月23日、社会民衆党本部前でベルギー社会党委員長・第二インター議長のヴァンデルベルト氏夫妻を歓迎する1枚があります。写真にはヴァンデルベルト氏夫妻と安部磯雄、松岡駒吉、赤松克麿、小池四郎、赤松常子、赤松明子、阿部静枝・阿部温知夫妻らの社会民衆党幹部が写っています。

社会民衆党(安部磯雄委員長・片山哲書記長)は友愛会・総同盟が支援した無産政党で、1926(大正15)年に結党されています。総同盟から鈴木文治・松岡駒吉・西尾末廣らが役員に就任。社会民衆党はその後、中間派無産政党と合同して社会大衆党へと発展。戦後は日本社会党(右派)・民社党へと続く、民主的社會主義政党的源流となります。

社会民衆党機関紙「社会民衆新聞」は記事「社民館の建設とその維持に就て」で、「和田操君の好意と努力によつて完成」したと記しています。和田操とは和田印刷所などを経営していたクリスチャン実業家で、東京市議などを務めています。戦後民社党から衆議院議員を5期務めた和田一仁(1924.7.30~2010.12.8。クリスチャン、民社党副書記長、西尾末廣秘書など)の父です。

4. J・コンドルゆかりの建物などを紹介した「コンドルマップ」を贈呈します!

日本近代建築の父とされ、今年が没後100年の建築家ジョサイア・コンドル(1852.9.28~1920.6.21)は、その生涯で多くの作品を残しています。都内で現存するコンドルの建物には文京区湯島の岩崎邸、丸の内の三菱一号館美術館、港区三田の綱町三井倶楽部、品川区東五反田の旧島津侯爵邸(清泉女子大学本校舎)などがあります。

友愛労働歴史館はコンドル没後100年を記念し、コンドルゆかりの建物や場所を案内した「コンドルマップ—没後100年、コンドルの足跡をたどる—」(PDFデータ)を作成しました。ジョサイア・コンドルに関心のある方、近代建築物に興味のある人、歴史散歩が好きな方は、友愛労働歴史館までご一報ください。「コンドルマップ」をメール添付で送付・贈呈いたします。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL.050-3473-5325

Eメール yuairekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairekishikan.com>

惟一館から125年、友愛会から107年